

医務室通信

NO.12 2018年4月26日

尾道市立大学 医務室

実は恐ろしい 麻しん患者が増加

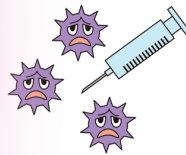
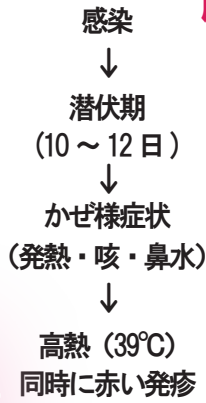
沖縄県内で3月20日に診断された麻しん患者から2次、3次感染と次々と発症者が確認され、名古屋市でも患者が出るなど、感染が拡大しています。これから人の出入りの激しい大型連休が始まり、全国どこでも感染する可能性があります。

はしかの予防接種

「MRワクチン」を2回受けていますか？ 治療法はなく、予防はワクチン接種のみ

麻しんウイルスの直径は100～250nmと小さく、空中を浮遊したウイルスを吸い込むことで感染するのでマスクや手洗いでは感染を防ぐことはできません。麻しんの感染発症を防ぐ唯一の予防手段は、ワクチンを接種して麻しんに対する免疫を獲得しておくことです。

麻しんにかかったことがあるかどうか、
予防接種を2回したかどうか、
不明の場合は予防接種を検討してください。



麻しんとは

「はしか」=麻しんのウイルスは、感染力が極めて強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症するという、相当に強力なウイルスです。一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

症状 症状が出る1日前からは周囲の人へ感染させる

感染すると、約10～12日の潜伏期間の後、38℃前後の発熱が2～4日間続き、咳や鼻水など風邪のような症状が出ます。その後、少し体温が下がり、再び高熱(39℃以上)が出るとともに、発疹が出現します。発疹出現後3～4日間で解熱し、症状は軽快します。

出席停止期間

麻しん(はしか) 解熱した後3日を経過するまで

合併症

麻しんで怖いのは合併症です。約30%の患者に合併症がみられ、その40%が入院を必要とします。肺炎、中耳炎を合併しやすく1000人に1人の割合で脳炎が発症し、死亡するケースもあります。また、麻しんにかかると全身の免疫力が低下するため、他の感染症にかかりやすくなります。

MRワクチン

麻しん含有ワクチンを接種することによって、95%以上の人が麻しんウイルスに対する免疫を獲得することができると言われています。また、2回のワクチン接種により、麻疹の発症のリスクを最小限に抑えることができます。

空港は感染リスク大！

多くの海外渡航者が行き来する空港は、最もリスクの高い場所の一つです。自分は流行国に行っていないくとも、流行国で感染した帰国者からの感染(空気感染・飛沫感染・接触感染)は十分にあり得ます。関西空港で昨年発生した集団感染では、空港の従業員、医療関係者、一般客計37人が発症しました。そのうちの1人がコンサート会場に行き、さらに2人が感染しました。

27～40歳は免疫の「空白世代」

大人世代に「はしか」患者増加

出生時期	予防接種の有無	免疫
1977年以前 ～昭和52年生41歳	予防接種は任意 一度も接種していない可能性がある	自然感染で 免疫獲得することが多い
1978年～1990年(4/1) 昭和53年生40歳～ 平成2年早生27歳	1回接種もしくは 一度も接種していない可能性がある	免疫あり、なしが混在 感染危険度が最も高い
1990年(4/2)以降 平成2年生28歳	2回接種する機会があった キャッチアップキャンペーン*	免疫獲得可能性が高い

*2008～2012年度の5年間に限り、中学1年と高校3年相当年齢の人に2回目のワクチン接種が導入された。

MRワクチンの定期接種は2006年から1歳児と小学校入学前1年間の幼児の2回接種制度になっています。